



創業 70 周年  
記念 特集号

昭和42年  
第28号



発行者 北九州市門司区大字吉志1.931  
梅崎礦業株式会社  
編集者 牧 野 正 一





# 創業者の足跡

創業者梅崎牧太郎は明治七年十二月九日梅崎要右衛門の長男として山口県豊浦郡清末に生れ山口に在る現在の山口高等学校(旧制山口中学)の前身である防長教育会山口学校を中途退学してから暫らくは梅崎家の家業である石灰製造業と米穀商に従事していたが早くから実業界に志し雄心勃勃として日清戦争後の台湾に着眼して製糖業を営まんとの野心を持って時の代議士大岡育造の援助を受け渡台の計画を進めていたが家族の反対に会い其の企図を阻止され更に外科医を志して上京して其の準備をしていたが是又家族親戚の反対に会い止むなく帰郷して又再び家業に従事した。

知して当時の福岡県企救郡松ヶ江村と同郡東郷村で石灰石ドロマイト砕石等の採掘販売を始めた。昭和七年長男である現社長が其の経営に参加してから漸く閑暇を得て昭和九年頃から清末村阿内に於て植林事業を始め約四年間で公簿で約六十町歩の植林を完了した。又昭和十一年頃から小野田セメントとの共同出資で福岡県後藤寺に於て金田駅と後藤寺町見立間の専用鉄道敷設に専念すると共に村政に参与して昭和十四年下関市に合併する迄村長を勤め地方自治振興の為力を尽した。

金見鉄道計画が挫折し戦局又日に日に不利の状況の下で傷心の中に終戦を迎えたが昭和二十一年三月現社長の復員を迎えると同時に病を得て昭和二十一年九月一日波乱の多かつた七十四才の生涯をとちた。

石灰石ドロマイト、ガニスター採掘事業界の先覚者として、現其の業界に偉大なる勢力を以て其の覇を称せられつゝある梅崎牧太郎君は、山口県豊浦郡清末村の出身梅崎要右衛門氏の長男にして、明治七年十二月九日を以て生れ夙に実業界に志し東奔西走の結果、明治三十年の頃現業たる福岡県企救郡松ヶ江村及同郡東郷村に石灰石ドロマイト、ガニスター採掘事業に着手せり、時恰も八幡製鉄所と同時に発起計画されたものにして、年を閲すること実に二十七年に垂んとす。此の間資を投ずること数十万円の多額に達し、経営難に遭遇すること一再ならざりしも而かも胸中自信強き君の奮闘的努力熱心は、失敗を重ねる毎に一層の強烈なる勇気を加え、先見果斷を共に堅忍毫も屈する所なく、遂に萬難を排し苦戦辛闘の効果空しからず、今や斯界の権威者として儼然たる一大勢力を現出し、盛大なる事業は歲月を重ねると共に大々的此の一生面に発展しつゝあり、蓋し二十年前君が創業当の希望に顧みず爾來幾春秋かの霜辛雪苦を嘗め尽したる苦心奮闘の跡と、堅忍不拔の精力を一貫して贏り得たる今日の大なる成功とに想

到せば、誰か亦其の壮烈なる意氣と不撓不屈の精神とに対し、満腔の敬意を以て君が成功を賞識し、同時に敬慕の意を払わしめざるものなからんや、君も亦た立志伝中の事業家として防長の現代を志るべき一人物なる乎。翻て事業の現況より觀察せば採掘せる石灰石一ヶ年の産額数十萬噸に達し、製鐵所及淺野、小野田兩セメント会社の需要は挙げて君の供給する所となり、ドロマイト(苦灰石)今日産額數萬噸内外、ガニスター(軟硅石)産額數萬噸、硅石産額數萬噸は製鋼及高熱管管耐火煉瓦製造必須原料として殆んど君の独占に歸し、八幡製鐵所、日本製鋼所(室蘭)、鋼管会社(東京)砲兵工廠(大阪)、田中製鐵所(釜石)、海軍工廠(呉)、住友鑄鋼所(大板)、川崎造船所(神戸)、等其の他日本有数の鐵鋼所は、孰れも君の供給に需めつゝあり、殊に欧州戦乱の拡大なるに伴い近時噸に促進せしめたる内地製鐵、鐵鋼事業の勃興及び拡張は、端なくもヨリ以上の幸運を招致し現下並に将来に於けるドロマイト、ガニスター、硅石の需要増大は、君の事業をして愈々益々隆昌を導かしめつゝあり、彼の鐵業界の王国久原鐵業株式会社、這般戸畑の地を下し一大製鋼所の建設を計画せるも、一は斯業に缺くべからざる必須原料たる君が経営に係る石灰石及ドロマイト、ガニスター硅石の生産無尽蔵なるに起因する由なれば此の一事に徴する君の事業が什麼に今後の発展を遂ぐべきかは、蓋し想像に難からず、前途那辺にまで国家的大成を齎らすべきか、頗る刮目に値すべきものあると共に、個人発展の爲亦大に慶すべき事也。爾今君の先見の明あり、烟眼克く困難なる事業に堪え得る君は、該事業の外更に福岡県企救郡東郷村大字白野江の地先公有水面積一萬二百三坪五合に埋立を企劃し、予め今日の盛運に必ず明治四十五年其の筋の許可を得て、資金四萬有餘円を投じ築港建設に着手しつゝ、あれば之が完成又遠からず、君の拡大なる事業は數年の後、必ずや更に大なる面目を革め、偉大なる成功を齎すべきものあるを囑目せらるゝ、蓋し得易からざる奮闘の事業家と云う可き也。君は意氣頗る剛健にして、奮闘の事業熱心家なり、自信力極めて強く、勇氣に富み、精力主義にして真率機敏、奮闘克く経営の難局に処して屈せず、事に當るや熱心以て遂げずんば止まざるの氣概を有す、而かも部下後進を統御するの徳を備え指導誘掖甚だ親切にして寛嚴其の度を失せず、遇するに一家族の如き待遇を以てす、故に組織愈々大なると共に事務整然として統一のなり、君又公共心に富み、公共事業に翼賛して能く喜捨するの美風を有す、今や富巨萬を積み、家産裕々として富豪に數へらるゝの位置にありと雖も、君や汝々管々として経営に尽瘁し、日夕勵精して能く一般を統率し、努力奮闘維れ日も足らざるの概あり。居常甚だ温厚にして社交に長じ、人に対する圓満快活にして愛情の抱すべきものあり、寔に事業家としての素質を具備すると共に、人格高く、常識圓滿に発達せるものあるは、君が天資として萬人の感嘆措く能はざる如なり、君尚春秋に富む、進歩的意を得たるものとして特に推奨禁ぜざる也。夫人梅子は古谷喜氏の長女にして、君が内助者として貞淑の聞え高く、一男三女あり、多幸なる家庭は団欒の裡に和氣満々たり。營業所は下関市阿弥陀寺町梅崎支店にして、電話長五〇四番なり。

# 現代防長人物史より

(大正六年十二月発刊)

石炭ドロマイト、ガニスター採掘事業界の先覚者として、現其の業界に偉大なる勢力を以て其の覇を称せられつゝある梅崎牧太郎君は、山口県豊浦郡清末村の出身梅崎要右衛門氏の長男にして、明治七年十二月九日を以て生れ夙に実業界に志し東奔西走の結果、明治三十年の頃現業たる福岡県企救郡松ヶ江村及同郡東郷村に石灰石ドロマイト、ガニスター採掘事業に着手せり、時恰も八幡製鉄所と同時に発起計画されたものにして、年を閲すること実に二十七年に垂んとす。此の間資を投ずること数十万円の多額に達し、経営難に遭遇すること一再ならざりしも而かも胸中自信強き君の奮闘的努力熱心は、失敗を重ねる毎に一層の強烈なる勇気を加え、先見果斷を共に堅忍毫も屈する所なく、遂に萬難を排し苦戦辛闘の効果空しからず、今や斯界の権威者として儼然たる一大勢力を現出し、盛大なる事業は歲月を重ねると共に大々的此の一生面に発展しつゝあり、蓋し二十年前君が創業当の希望に顧みず爾來幾春秋かの霜辛雪苦を嘗め尽したる苦心奮闘の跡と、堅忍不拔の精力を一貫して贏り得たる今日の大なる成功とに想



# 合同慰霊祭 御霊よ安らかに



創業以来梅崎磁業株式会社の発展に協力され、不運にも取場に殉ぜられた次の人々の冥福を衷心よりお祈りします。

## 殉 職 者 名

- |           |            |           |            |
|-----------|------------|-----------|------------|
| (四)奥村 文蔵殿 | 大5年11月20日  | (遠)浜元ミサヨ殿 | 昭28年10月25日 |
| (新)形上 敏介殿 | 昭3年4月11日   | (金)村山 勇殿  | 昭29年7月9日   |
| (遠)佐藤 勇殿  | 昭15年10月10日 | (ク)馬場 友市殿 | 昭31年6月19日  |
| (遠)岡崎 タカ殿 | 昭23年12月14日 | (ク)城 松雄殿  | 全 右        |
| (四)木下 守光殿 | 昭28年2月6日   | (ク)田中 弘見殿 | 昭34年11月26日 |
| (ク)松本甚三郎殿 | 全 右        | (遠)恵良 文男殿 | 昭39年11月3日  |
| (金)荒生 政市殿 | 昭28年3月6日   | (金)藤本金次郎殿 | 昭41年7月28日  |

## 慰 霊 祭

### 社 長 慰 霊 の 辞

本日ここに梅崎磁業株式会社創業七十周年の行事として過去に於て尊い犠牲者となられ、殉職せられた故奥村文蔵氏外十三柱の御たまをお招きして慰霊の式を行うに当りまして会社を代表して追悼の言葉を申し上げます。

亡父牧太郎が明治三十一年此の地に事業を起してから今年で丁度七十周年を迎へる事に相成りましたが、顧り見ます時、七十年の長い間父子二代に亘り紆余曲折変遷盛衰はありましたが、とにもかくにもささやか乍らも事業を継続し得ました事はそれは全従業員諸氏の愛社精神に燃ゆるたゆまざる努力、社業に対する献身的な協力を併せて八幡製鉄所外関係諸会社の御庇護の賜物である事私といたしましても衷心から感謝して居りますが、中でも其の間不慮の災害に会い御一家にとつてはかけが

へのない命を失はれましたあなた方の尊い犠牲のあつた事を瞬時も忘れはならないと思ひます。企業を経営する者の責任としても忘れる事は許されぬこと、と思ひます。

私は忘れた事は御座居ません。喜びも悲しみも共にしたいという新しい形の雇傭関係をとる経営を念願して努力して来たつもりなのに私にとり死亡災害事故程私の心をうちめした衝撃はありません。私がこの事業に参画して丁度今年で三十五年を迎へる訳ですが、この不幸な災害事故に遭遇したその時、あの時、何日も果してこういう事業が私の性格に合致してゐる事業であるのだらうか、こういう心の衝撃に将来私は耐へ得られるのであらうかと自問自答して人生に對し懐疑的になつた事も幾度もありました。事業を止め度いと思つた事さへありました。併し私はこう

思い直しました。皆さん方の尊い犠牲に對しそれが経営者のとる可き態度であらうか、こう云う悲惨な犠牲をなくする事こそ私に課せられた人生への課題なのではなからうか、今こそ勇猛心を奮い起して安全な明るなお前が理想として居る職場を作るべきではないかと、そういう理想を以つてお前は一度建てた人生の方針を思い直して此の事業に参加したのではないかと、

皆さん御喜び下さい。ささやかな企業ではありますが、七十年という年の経過に較べます時余りにも貧弱な内容ではありますが、運々として誠にお恥かしいのろい歩みではありますが、私の理想に少しづつでも近づいて居ります。

保安の面に於てもあなた方の残された尊い教訓を我が心の糧として細心の注意を以つて従業員の諸君は其の各々の職場に於て企業を愛する精神に燃へて孜孜として勤勞してくれて居ります。

又あなた方の一番気がかりであつた御遺族の方々も皆健やかに或いは成人し或いは一家をもち、或いは嫁しづかれ各々其の所を得て、夫々の家庭職場に於てけなげに働いて居られます。

招魂申上げた十四柱の御霊、どうも御遺族の方々将来が益々幸多からん事を照覧御加護あらん事を、そして又我が社の将来を何卒みなはし給らん事を切に切に御願いたしまして私の慰霊と追悼の言葉といたします。

本日のこのさ、やかな慰霊の式が在天のあなた方を少しでも御慰めする事が出来ますならば私の喜びはこれに過ぐるものはありません。

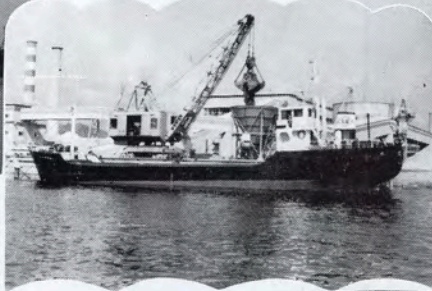
# ＝ 職場スナップ ＝



遠 郷



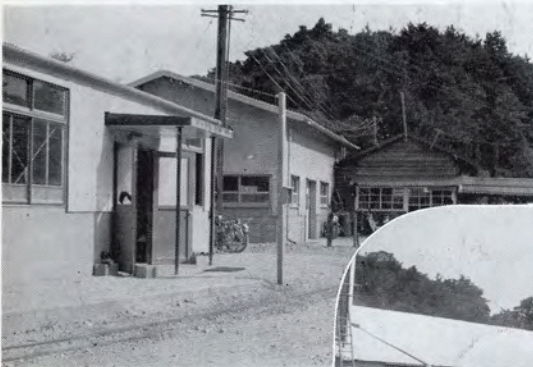
船 舶



レミコン



金 山



四 ツ 高

